



移動診療日に診察を待つ親子連れ。



診療所のスタッフたち。



The Republic of South Sudan

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

国家の未来を担う子どもたちが すこやかに育つ社会を目指して

アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起り、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろいろな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動続けるスタッフからの「現地活動レポート」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみてください!
<http://www.peace-winds.org/m/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク11月号の販売部数

5,484部×3円=16,452円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。



peace winds JAPAN

タウトク

medicomm inc

株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

2015年10月に南スーダン事業担当として、ナイロビ事務所へ赴任した井上です。

11月初旬から2週間、PWJの事業地である南スーダンの首都ジュバに出張し、衛生事業の進捗確認と新規保健プロジェクトを立ち上げるための状況分析や調査等を行いました。今回は、その新たに取り組みたいと考えている南スーダンの保健についてご紹介します。

まずは、南スーダンの現状を知るため、基本的な保健指標を調べました。この保健指標というのは、幼児死亡率や平均寿命など日本を含め世界の国々が公表する共通の指標であり、事業を実施したい国の保健分野の背景を知るにはとても有意義なものです。調べてみると、南スーダンでは、「5歳以下の子どもの死亡率や「妊産婦死亡割合が世界の国々と比べても高いことや、栄養失調の割合が高いことなど、母親や子どもに対する保健対策は

国の重点課題となっています。また実際に町で調査を行うと、ジュバ市内の国内避難民キャンプでは、混雑した狭い居住環境、朝晩の冷え込み等が原因で気管支炎に罹る人が多いことや、マラリアの予防に利用する蚊帳が手に入らなかったり、不十分なキャンプ内の不衛生な排水

設備でボウフラが大量発生しやすいことなど、マラリアに罹るリスクが高いことがわかりました。未だ途上国では子どもの死因のトップ3に入り、原虫を持った蚊に刺されることで高熱や死に至るマラリアという病気は、南スーダンでも多く発生しています。本来、これらの問題に対応するのは現地政府になるのですが、国家予算

のうち、保健事業に関する予算の割合がこの5年間で8%から2%に減少し、もっぱら他国の援助に頼っているのが現状です。国立レベルの病院ですら医薬品や医療機器、医療従事者の慢性的な不足などが課題になっています。

ジュバ近郊のジェンゲリという地区は、2015年初旬に約6000人の国内避難民が流入したと言われていました。キャンプという形ではなく、ホストコミュニティの人々の中で国内避難民が共存しているため、正確な人数は統計に出ていないのですが、地区にある診療所での聞き取りで、患者数が増えたことがわかりました。しかし、患者数が増えたにも関わらず、診療所には定期的に国から配布されるはずの医薬品が十分な量が届いておらず、調査したときは休業の状態でした。現在、国内避難民だけでなく周辺住民の人たちも、この診療所で2週間ごとに実施されるNGOによる出張診療に頼らざるを得ない状況です。

今回の調査を受けて、診療所への支援や、現在実施している手洗いやトイレの使用を推進する衛生普及員の活動経験を活かし、地域の人たちの保健衛生への意識を高めるため、家庭訪問による子どもや妊娠中の女性たちが適切な時に診療所に通うように促す活動を計画しています。内紛による止むを得ない移住や不安な日々から解放され、女性が安心して安全にお産ができ、子どもたちがすこやかに成長できる環境が整えられていくような事業にしたいと考えています。この事業が、世界で一番新しい国である南スーダン国家の明るい未来に繋がっていくことを願ってやみません。

ナイロビ駐在南スーダン事業担当 井上京子



来院患者も少なく静かな診療所。



国内避難民キャンプ内の病院。

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみさまによる寄付金により実施しています。